

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぷらネット

第12号



たくさんの笑顔に囲まれた、ほんのりあったか〜い訓練風景でした。

この事業は二十年一月十九日、デイケア施設の歩歩舎で開催しました。当初予定した会場は抽選ではずれ、やや狭小の会場でしたが、障害者施設を利用した事にその意義があったと思います。さて、表題の「姿勢のふしぎ」とは、催眠法による心理療法とも云われる動作法の訓練で、誰もが感じる率直な気持ちです。この日の講義は、先ず動作法の紹介として寸劇が上演され、日本心理リハビリテーション学会スーパバイザーの鈴木芳宏先生（和光養護教諭）による動作法の歴史と説明、そして、いろいろな実例が紹介され、まともはメンバーの養護教諭が指導する実技でした。

参加者は障害児・者と親、難病の方、学生や養護教諭、福祉施設職員など約七十名にも及び、動作法が健康回復とその維持に活用されるわけを、身をもって感じました。

佐々木二男

姿勢のふしぎ
動作法で
からだの訓練を

生活訓練事業（さいたま市障難協）

平成十九年度
**私たちが取り組んだ
今年の事業①**

今年度の事業で感じたこと

さいたま市社会参加推進協議会委員長 田口秀之助

十九年度事業も「障害者週間」市民のつどい。生活訓練・家族教室事業も無事終了しました。

前年と同じく、十事業。生活訓練五事業、家族教室五事業でした。

本年度より「障害者一〇番運営事業」「相談員活動強化事業」が県事業になり廃止になりました。しかし一〇番の事業については各団体ほとんどの相談員が継続すべきだ、との意見で時間を午後短縮して自主的に続けています。

「社会参加推進協議会の役割として障害者各団体の要望が適切に反映されなければならぬ」とあります。ぜひ復活をさせていただきたい。予算がだめでも市報に掲載していただきたい



難聴者・中途失聴者協会の手話教室は、年間5回の連続講座です。

これが相談員全員の願いです。

「障害者週間」市民の集い、は前号に詳しく掲載されている

ので省きます。熱気があふれていました。

生活訓練・家族教室は各団体から委員を選出、それぞれの団体の特色を生かした事業です。各事業に他団体からの実行委員を加えることで自分とは違う障害の事情を理解できます。

私自身、聴覚障害のことは分かっていたことを知りました。

なぜ要約筆記と手話通訳が必要なのかわかりませんでした。出席して質問しました。洋画を見るととき字幕スコーパーで十分理解できるので手話と両方見ることができないのだからスクリーンに映すときは、片方でいいのではないのですか。

それに対して、中途障害の人の中にはなかなか手話に馴染めない人がいる。また小さいときからの聴覚障害者は発音なしに字を習うのはどんなに大変か、耳の聴こえる人の何倍も努力しなければならぬ。それに昔は教育の機会に恵まれなかった人も多かったときがあるのでは手話・要約筆記とも必要だ。知らなかった。字は見えれば書けるようになると思っていた。

思い出しました。私より少し年長の人は肢体不自由の人も公立の旧制中学の入学には学科のほかには体育の試験があり、鉄棒の逆上がりが出来ないと入学できない時期があったことを。中学校に軍の将校が配属されて軍事教練があったからです。障害者は教育を受ける権利が奪われていたのです。このようにならないためにも平和を守らなければならないと思います。

相談員事業

一一〇番事業の

現状

平成十九年度から障害者一一〇番事業と同時に、法によって定められた身体障害、知的障害の相談員強化事業もさいたま市社会参加推進センターの事業から除外され県の事業と位置づけられることになりました。

政令市となり、相談員強化事業を受託して以来、さいたま市社会参加推進協議会（実際の組織としてはさいたま市障害者協議会）は、名前だけで何もしない相談員をなくすために、相談員の質の向上を目指してきました。相談技術の向上のための一流講師を招いての研修会、身近な問題を取り上げての事例研究

など、精神障害分野、難病分野の相談員も含めて幅広い勉強ができたと思っています。

このことは、予算化されなくとも一一〇番相談を自主的事业として続けたいという大きな力となっているし、相談を受けながら、相談員一人一人が「答えられない」という事態をなくす努力をしていると感じることがあります。

知的障害者相談員については、埼玉知的障害者相談員連絡



交流センターで行なわれた知的障害相談員の研修

障害者110番相談件数集計 相談合計総数 102件

平成19年度		身 体			知 的			精 神		
		TEL	FAX	面接	TEL	FAX	面接	TEL	FAX	面接
4月	小計	4	0	1	2	0	0	4	0	0
	合計	5件			2件			4件		
5月	小計	3	0	2	3	0	1	2	0	0
	合計	5件			4件			2件		
6月	小計	1	0	0	2	0	0	5	0	1
	合計	1件			2件			6件		
7月	小計	0	0	0	0	0	0	5	2	0
	合計	0件			0件			7件		
8月	小計	4	0	0	0	0	0	2	0	0
	合計	4件			0件			2件		
9月	小計	1	0	0	4	0	0	4	0	1
	合計	1件			4件			5件		
10月	小計	1	0	0	0	0	0	7	0	0
	合計	1件			0件			7件		
11月	小計	0	0	0	3	0	0	8	0	0
	合計	0件			3件			8件		
12月	小計	0	0	2	0	0	1	4	0	1
	合計	2件			1件			5件		
1月	小計	1	0	0	2	0	0	4	0	1
	合計	1件			2件			5件		
2月	小計	0	0	0	1	0	2	4	0	0
	合計	0件			3件			4件		
3月	小計	0	0	1	1	0	0	4	0	0
	合計	1件			1件			4件		
合計	小計	15	0	6	18	0	4	53	2	4
	合計	21件			22件			59件		

会の会員となって会費を納入し、一地区として二月十四日に埼玉県障害者交流センターで研修会を開催しました。

の三事例を、三人の相談員から報告し、さいたま市障害者総合支援センターの山本センター長から助言をいただきました。

内容は、これまで一一〇番相談で受けた相談の事例研究で、一、知的な障害のある本人からの相談

ともすると、気が付いたら何もしないうちに一年が終わってしまったと言うことになりがち

二、相談の内容が多岐にわた

り、他機関と連携して取り組んだ相談

三、学校選択など、学齢期の相談

知的障害者相談員 浅輪田鶴子

私たちが取り組んだ今年の事業②

生活訓練事業

出会いへの

期待を込めて

OMIYA ばりあフリー研究会

代表 傅田ひろみ



シーノ大宮の広場に集合!

障がいを持つ人たちと関わってみたい人、実際相手を探しに来た人、と実に様々な人たちが残暑厳しい中集まりました。

シーノ大宮の公共施設出入口の前が集合場所だったので、さすがに四十名以上のつかみ所のない集団だったせいか、警備員に「ここは職員の休憩所だから退去せよ」と言われたり、日程説明をしている間に、学生さんが貧血を起こし、

ひっくり返ってしまったりと、スタートを前にしてハプニングもありました。それでもめげずに、「ブラブラコース」「ワクワクコース」「ドキドキコース」の三グループに分かれて出発。いずれのコースもどこかの店に入り、昼食を取ること、電車に乗り、北与野駅近くにある埼玉トヨペット本社会議室で報告会を行なう、大まかにこうしたルールを作りました。

私が参加したのは「ワクワクコース」。聴覚障がいの方がいて、手話通訳の方も一緒にいました。まずはソニックシティビルの三十階、三十一階にあるテココ館へ。

眺望を楽しんだ後、私自身、童心に帰って遊んでいたのですが、ふと、今やっていることはデートプランの実践なんだということに気が付き、カップルはできたかと周りを見渡しました。当たり前前の事ながら、カップルは見当たらず、私は焦って、顔

馴染のボランティアの青年、といっても一見のパパなのですが、彼に、なるべく独りぼっちでいる女性と話をしよう頼みました。デートと銘打ったからには、何とかカップルを作らなければと思ったからです。

そうこうするうちに昼近くなり、昼食をどうしようかという話になりました。車椅子の人も多く、あちこち探し回るのも大変かと思ひ、近場のシーノ大宮にある店にしようということになりました。お洒落だけれど



ファミレスでランチ!

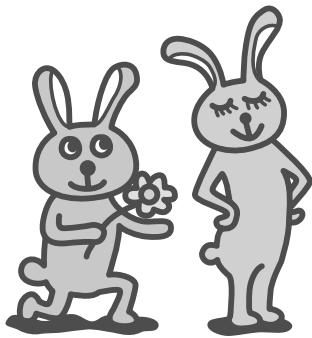
よっと高めの店、リーズナブルだけれどいつも行っているような店、どちらの店にしようかということになりました。私はデザートなのだからと思い、ちょっとお洒落な店がいいんじゃない、と余計なことを言っていました。

事業費を使っただけの飲食はいけないということだったので、昼食代は自費。その結果、デザートだけの注文という人がいて、昼食の場所の選択は失敗だったかもしれないと反省。せめて半分でも補助があれば、もう少し気軽にお店の選択もできたのかなと思いました。

街を歩く、食事をする、電車に乗る、映画を観る、普通の人たちにとっては当たり前のこんなことが、障がいを持っている人たちにとってなかなか当たり前にならない、こうした歯がゆさを何とか打破したいと思います。「ばり研」はいつも街を歩いています。今回もこうしたメンバ

ーの思いを込めてみんなで企画を練り上げ、委員会にもメンバーが参加しました。単なる「飲み食い」ではない、障がいのある人、ない人が、それも初対面の人たちがいっしょのテーブルで、介助したり、されたりというを通して、お互いの関係性を作っていく、そんな食事のよくな気がするのです。予算の使い方に関し、次年度はもう少し議論ができればと思います。

最後の報告会では、宇宙劇場で映画を観た際、障がい者は専用の席だったが、デザートだったから、並んで座りたい、という発言が印象に残りました。



生活訓練事業

社会参加の大きな原動力となる機器開発

さいたま市視覚障害者協会

藤崎 明美

昨年十二月九日、第四回目となりました生活訓練事業では、ご自身も視覚障害者であるネリマサウンド(株)社長安藤氏による講演と福祉機器開発・販売メーカー六社による機器の体験と学習会を行いました。

安藤氏の講演では、開発販売メーカーとしての生き方に一企業家として障害を感じさせないほどのパワーを発していました。体験学習では、実際に私たちが使っている音声パソコンを一般の方々にも体験して頂くことにより障害のあるなしに関わらず文章のやり取りが交流のきっかけにもなるということを知っていただけたのではないかと思います。

音声化が進み視覚障害者のパソコン携帯電話使用人口が増え当たり前のようになりつつあります。そして、社会参加の大きな原動力になっています。更に開発が進み一般社会でも認知度が高まって行くことで視覚障害者の職域の拡大に繋がるのではないかと大いに期待していきたいと思います。

家族教室開催事業

成年後見制度 その実例と活用法

さいたま市手をつなぐ育成会

宮部 幸子

平成十九年十月二十三日、障害者交流センターに於いて「成年後見制度」その実例と活用法と題し、家族教室を開催致しました。当日は、用意したイスが足りなくなり後ろに並べるほどで、成年後見制度に対する関心の高さが伺えました。講師の山

本進さんは、ばあとなあ埼玉(成年後見センター)で中心的な活動をされており、参加者に分かりやすい言葉で説明をして下さいました。

一般的な事例を示された後、成年後見制度を利用した場合にどんな事が出来るのか・親族は代理人になれるのか・後見人の権限と役割・後見人でも出来ないこと等、難しい言葉には解説を加え、丁寧にお話し下さいました。また、実際に申し立てをする時に必要な書類・後見人の選定に対する考え方・申請時にかかる費用やちょっと聞きにくい後見人の報酬の事まで具体的な数字を示してください、大変参考になりました。

体験発表は、後見人になられた方と申請中のお二人でした。障害のある子を持つ同じ親の目線から共感するところも多々あり「親が元気なうちに手続きを」の言葉には、大きく頷かれた方も多かったと思います。



今回の家族教室では、制度を知り実際の活用方法を学ぶことに重点を置きました。「成年後見制度」と聞くと家庭裁判所や法務局等、一般の方には馴染みの薄いところで敷居が高く感じられますが、山本さんのお話をうかがい、必要書類や申請時の費用が分かっていると、戸惑いも少なく相談に行きやすくなったのではないかと思います。身の回りで、様々なことが変化してきています。

施設との契約書には後見人の欄があったり、郵便貯金の解約は家族でも手続きが困難になりつつあります。

障害のある人が、地域で安心して生活を送るためにも、活用したい成年後見制度であると思います。

守りたい人を見つめ、今回の家族教室が一步前に進むきっかけになれたら嬉しいと思います。

家族教室開催事業

ひとりで抱え込んでいませんか

さいたま市精神障害者家族会連絡会

岡田久実子

十九年度の精神障害者家族教室が、去る九月十六日(日)浦和ふれあい館にて開催され、九十三名(うち家族会会員五十三名、当事者会会員十五名、一般二十九名)の参加者でした。

第一部は、「精神科医療について考えよう」(講師・聖みどり病院事務次長・P.S.Wの鈴木忠寛氏)と題する講習会でした。精神科病院の役割と家族の限界にも触れ、この病気の持つ困難さと、その現場で誠心誠意職務を全うされている若い精神保健

福祉士の方の意気込みが伝わって来るお話でした。その中で印象的だったことは、精神科医療が変化してきているということでした。新薬の開発により長期入院から、必要最小限の入院期間で、症状を抑えるばかりでなく意欲を保ちながらの治療が可能になってきている。地域生活に復帰できる人が増えているという現状が話されたことです。

この話しが裏付けられるように、第二部の当事者六名のパネルディスカッションでは、家族と別居している方も、家族と共に暮らしている方も、それぞれの状況の中で「自分らしく生きること」を模索している姿が印象的でした。第一部では、障害を抱えて生きることの厳しい現実を学び、第二部では、精神障害者として潔く生きる当事者の方々に、希望の光を見る思いでした。また、この会に参加されたことで家族会につながれた方がいらした事は、何よりでした。

◆平成19年度 社会参加推進センター開催事業 報告◆

事業名	開催日 / 場所	参加者	テーマ・内容等
家族教室開催事業 (身体)	8月5・19・26、 9月16・23日 全5日 大宮ふれあい福祉センター	150名 (延べ)	「手話教室」手話の実技指導と難聴者の体験発表 家族間の円滑なコミュニケーションを図るため、初歩程度の手話の学習をしました。
生活訓練事業 (身体)	9月8日(土) 集合場所 シーノ大宮セン タープラザ入口前(2階) 報告会 埼玉トヨペット(株) 本社3F会議室	43名	「デートプラン実践講座」 障害のある人もない人も一緒に街を歩いてみました。グル ープに分かれ、プランに沿って出発。見て・食べて・話し て・電車に乗って・歩いてお互いに交流を深め、理解し合 える時間が持てました。
家族教室開催事業 (身体)	9月15日(土) 埼玉県障害者交流センター	82名	「音楽療法って…なあに」 第1部 講演「音楽療法の理論と実践」 講師：大澤和子氏(音楽療法士) 第2部 「楽器を奏でうたいましょう」 鈴、タンバリンを使って実際に歌いました。
家族教室開催事業 (精神)	9月16日(日) 浦和ふれあい館	97名	第1部 講習会「精神科医療について考えよう」 講師：聖みどり病院事務次長・PSW 鈴木忠寛氏 第2部 「ウィーズ(雑草)は育っています」 当事者による活発なディスカッションがありました。
家族教室開催事業 (身体)	10月14日(日) 埼玉県障害者交流センター	42名	「障害者が交通事故に遭わないために」 身体障害者は運転をしなくては、社会生活に支障が多い。 身体障害者に運転免許を取得させる事業を行なっている東 園自動車教習所の先生の講演がありました。
家族教室開催事業 (知的)	10月23日(火) 埼玉県障害者交流センター	96名	「成年後見制度」その実例と活用法 「契約」という名のもとに成年後見制度の重要性が叫ばれ ているなか、身近に起こる具体例を挙げ、成年後見制度の 上手な活用法を学習しました。
「障害者週間」 市民の集い	11月23日(祝) 与野本町コミュニティセン ター	350名	障害者の日を顕彰して開催された。式典(作文表彰・朗読、 全スポメダル受賞者インタビュー)、講演、人形劇、音楽 演奏、福祉機器展示、授産品販売、製作品の展示、団体展 示など。式典では入りきれないほどの人で会場が埋まりま した。
生活訓練事業 (身体)	12月9日(日) 与野本町コミュニティセン ター 多目的ルーム(大)	90名	「福祉機器・日常生活用具勉強会」 視覚障害者のための音声パソコン、スピーチオ、拡大読書 器、音声火災報知器等の体験学習と自らも視覚障害者であ る企業家安藤氏の講演がありました。
生活訓練事業 (身体)	1月13日(日) 大宮ふれあい福祉センター	35名	「詐欺防止」 講師：聴覚障害者相談員 田中 清氏 だましの手口の巧妙さ、だまされないようにするには5つ のポイントがありました。
生活訓練事業 (身体)	1月19日(土) NPO 法人大宮あゆむ会 歩歩舎(ぽっぽしゃ)	66名	「姿勢のふしぎ」一動作法でからだの訓練を 劇、スライドを使った講義、実技(体験学習会)の3部構 成で行なわれました。 講師：鈴木芳宏氏(日本心理リハビリテーション学会スー パーバイザー 養護学校教諭)
生活訓練事業 (身体)	2月17日(日) さいたま市浦和ふれあい館	145名	「人工肛門・人工膀胱造設者のための講習会」 講師：普門院診療所院長 田中貞雅氏 医師による性機能障害についての医療講習会。続いて、男 女別による懇談会が活発に行なわれました。

出会った妻に 支えられて

竹内 政治

私は精神障害者です。統合失調症と診断されて、早二十年で病でした。こんなふうには堂々と人前で病気のことを言えた時代でもなく、知識もなく、まさしくどん底の暮らしでした。只、気がつくくと社会の隅でひっそりと暮らせるくらいには回復していました。健常者と肩を並べるよう、辛い仕事に耐え、親元を離れ、歯を食いしばって生きてきました。だから三十歳半ばまで、福祉や社会資源などには無

関心だったと思います。

そんな環境を変えたのが現在一緒に暮らしている妻との出会いです。彼女には散々、ひどいこともしましたが、私の病気の事も含め肯定してくれる心の広い女性です。そんな妻の影響で作業所に通い始め、多くの理解ある人たちと出会いました。体験発表や文章で自分のことを表現する達成感を覚えました。そして、いつしか私も同じ生きづらさを抱えた人たちの輪を広げたいと思うようになり、二年前に自ら当事者会ウィーズを立ち上げました。その会の理念は「ひとりじゃないよ、仲間がいるよ」です。社会で孤立してしまいが

ちな精神障害者が今までの苦労を分かち合い、励ましあいながら活発な活動を展開しています。

そして、現在は精神保健福祉に留まらず、市の障害者協議会などでお世話になっています。自分の病気だけに目が行ってしまいがちですが、実は多くの障害があり、それぞれにハンデを背負って、それでも懸命に生きたいと願う人々には感銘を受けます。比べてはいけないと分かっています。精神の病を抱えた人々も、もっと自己主張しなくてはなあと考えます。それが後に続く者たちに必要だと思ふからです。誰だって障害者になってしまったら絶望や恐怖を味わうでしょう。そんな人たちに、大丈夫、障害を背負ってしまったっても自分らしく生きられるよ、と言うメッセージを私たちは語り繋いでいきたいです。よりよい未来を勝ち取っていい。そんな使命を感じながら私は西へ東へ奔走するのです。

事務局だより

二月にオストミー協会の生活訓練等事業に行ってきました。まず協会の活動報告があり和気あいあいと実に楽しい雰囲気が始まりました。そのあと田中先生による講演、術後のケア・排泄・性機能についてのお話があり、北欧との国民性の比較なども取り上げ一歩踏み込んだとて生なのか。自分自身を思いきり生きるための生なのではないかと改めて思いました。

この日の参加者は昨年の約倍増、それには関係業者(補装具販売業者)にチラシを持ちこみ配布に協力してもらったことと、以前の講習会の参加者名簿を参考に呼びかけをしたことが功を奏したそうです。実際に人を集めるためのヒントがそこにあるのかもしれない。(W)

リレートーク わたしはわたし



● 竹内政治さんプロフィール ●

1967年6月10日生まれ。夫婦ふたりで団地に暮らしています。趣味は読書。テレビが嫌いで過去に三回テレビを捨てたことがあります。肉食で人生の半分は肥満との戦いです。

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒333-0801

さいたま市大宮区土手町

一・二・三・一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三一

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

nifty.com

発行人 望月 武
編集人 浅輪 田鶴子